

(別記)

2020年度会津みどり地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当協議会は、JA会津よつば管内みどり地区の5町2村をエリアとし、会津盆地の平坦地から山間部まで、標高も170m～750mと立地条件は極めて変化に富み、地域特性に合わせた農業が展開されている。

当協議会では日本有数の良食味米の産地として、コシヒカリを主体に主食用米の生産拡大を推進してきたところであるが、消費の減少や、中食、外食等、米需要の変化により、販売環境も変化してきており、需要に応じ多様な対応を求められている。

需給調整については、新たな取組を必要としない備蓄米、飼料用米を中心に推進しているが、農家所得の確保を考えると、水田を活用した作物の導入をさらに進める必要がある。主たる作物として、キュウリ、トマト等の施設野菜、リンゴ、桃等の果実、花卉についてはカスミソウを推進している。カスミソウは昭和地区を中心に栽培され一大産地となっている。年々面積が増加、産地交付金の効果もあり主たる作物として一定の定着が図られている。

一方、地域の農業を支える、農業従事者の高齢化や担い手不足は顕著に表れてきており、新規就農者の育成、確保や営農組織、農業法人など受託組織の設立が見られるものの、更に多様な担い手の育成、確保が急務となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需給動向や集荷業者の意向を考慮し、需要に応じた作付け面積を確保、売れる米作りを推進していくとともに、多様な気象条件に対応した品種の選定により、生産性を高め、品質向上に努めていく。また、日本有数の良食味米の産地として、消費者や実需者からのニーズに対応し、環境にやさしく安全・安心を提供できる米づくりを推奨する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要が減少する中で、需給調整を担う作物として位置づけ、併せて耕畜連携による飼料確保の観点から、関係団体との連携により推進していく。産地交付金の活用により生産面積が定着してきており、多収品種や低コスト生産技術等の導入によりさらに生産拡大を目指す。

イ 米粉用米

需要と結びついた米粉用米の安定生産を目指し、地域流通や複数年契約の取り組みを支援する。

ウ 新市場開拓用米

該当なし。

エ WCS用稲

耕畜連携による飼料確保の一役を担い、また、需給調整の手法の一つとして、畜産農家の需要動向を見据えながら、生産拡大を促進する。

畜産農家との連携を図り水田の効率的な活用と粗飼料確保のため、粗飼料生産水田への堆肥散布に取り組む。

オ 加工用米

需要と結びついた加工用米の安定生産を目指し、地域流通加工用米や複数年（3カ年）契約の取り組みを支援するため産地交付金を活用する。

カ 備蓄米

水田を水田として使用し、需給調整が図れることから主たる手法として取り組みを強化、推進を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦・大豆

土地利用型作物として関係機関と連携し、排水対策等による高品質栽培技術を推奨し、担い手への土地利用集積を図るため産地交付金を活用し生産を促進する。

イ 飼料作物

土地利用型作物として関係機関と連携し、高品質栽培技術を推奨し生産を促進する。

(4) そば、なたね

ア そば

土地利用型の地域振興作物として、地域産業との連携と、排水対策と生産技術向上により、高品質生産を後押しするため産地交付金を活用し生産を促進する。

イ なたね

土地利用型地域振興作物として地域産業との連携と、排水対策等による高品質生産を後押しするため産地交付金を活用し生産を促進する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

野菜等（その他地域振興作物）について産地交付金を活用し作付誘導を図り、生産拡大により安定供給に対する消費地からの信頼を得られるよう産地形成を目指す。

ア 野菜

安定生産のため施設化を図り、アスパラガス、きゅうり、トマト、さやいんげん、ねぎ、にんにく、赤かぼちゃを中心に産地交付金を活用し生産を拡大する。

イ 花卉

高品質の切り花生産のため施設化を図り、宿根カスミソウ、キク、トルコギキョウ、ひまわり、ストック、スターチス、リアトリス、アリストロメリア、オミナエシ、コスモス、アマランサス、ユリ、すげ、ソリダコ、ナデシコ等に重点を置き、産地交付金を活用し生産を拡大する。

ウ 果樹

日本なし、ぶどう、もも、りんごを中心に産地交付金を活用し生産拡大を目指し、環境に配慮した栽培に努める。

エ 山菜

収益性の高い経営を目指すため、山菜加工場への出荷を推進し、わらび、ぜんまい等について産地交付金を活用し生産を拡大する。

オ 雑穀

健康食品として注目されているじゅうねん（えごま）に重点を置き、産地交付金を活用し栽培普及に努め、地域産品となるよう取り組む。

（６）畑地化の推進

該当なし。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	6,058.1	5,903.1	5934.4
飼料用米	36.6	33.6	103
米粉用米	0.5	1.0	1.5
新市場開拓用米	0.0	2.0	6.0
WCS用稲	38.3	40.3	70.0
加工用米	43.3	44.7	48.5
備蓄米	815.9	897.6	897.6
麦	40.2	45.2	66.0
大豆	12.6	15.2	36.3
飼料作物	2.5	4.5	10.4
そば	296.1	361.4	483
そば（二毛作）	43.1	46.3	91.0
なたね	0.4	0.7	2.3
その他地域振興作物	141.3	144.8	197.6
野菜	79.8	81.1	108.7
・アスパラガス	17.4	17.6	20.5
・きゅうり	17.4	18.3	20.1
・トマト	14.0	13.7	18.3
・さやいんげん	4.2	4.4	4.8
・ねぎ	3.4	2.8	3.6
・にんにく	1.2	1.5	2.0
・赤かぼちゃ	1.1	1.1	3.5
・その他野菜	21.1	21.7	35.9

花き・花木	42.0	42.5	47.4
・宿根カスミソウ	19.2	19.6	20.3
・キク	7.2	7.0	8.5
・トルコギキョウ	7.9	8.0	8.4
・ひまわり	0.3	0.3	0.4
・ストック	1.4	1.5	1.7
・アルストロメリア	1.1	1.1	1.5
・おみえなし	1.2	1.2	1.5
・コスモス	0.2	0.2	0.4
・ユリ	0.2	0.2	0.2
・すげ	0.1	0.1	0.3
・その他花卉	3.2	3.3	4.2
果樹	15.6	16.7	27.9
・日本なし	0.0	0.0	0.2
・ぶどう	1.6	1.8	1.8
・もも	1.9	2.0	3.3
・りんご	9.1	9.4	10.6
・その他果樹	3.0	3.5	12.0
雑穀	3.4	4.0	8.5
・えごま	2.6	3.0	7.5
・その他雑穀	0.8	1.0	1.0
その他作物	0.5	0.6	5.1
・その他作物	0.5	0.6	5.1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	野菜（基幹作物）	地域振興作物助成 （A）	地域振興作物の 作付面積	（2019年度）53.45ha	（2020年度）72.6ha
	花き・花木（基幹作物）			（2019年度）35.59ha	（2020年度）42.7ha

	果樹（基幹作物）	地域振興作物助成 （B）	地域振興作物の 作付面積	(2019年度) 2.84ha	(2020年度) 15.2ha
	雑穀（基幹作物）			(2019年度) 2.25ha	(2020年度) 7.5ha
	野菜（基幹作物）			(2019年度) 15.62ha	(2020年度) 18.5ha
	花き・花木（基幹作物）			(2019年度) 2.87ha	(2020年度) 3.2ha
	果樹（基幹作物）			(2019年度) 0.88ha	(2020年度) 1.1ha
	雑穀（基幹作物）			(2019年度) 0.83ha	(2020年度) 0.5ha
	その他（基幹作物）			(2019年度) 0.61ha	(2020年度) 5.1ha
	計				(2019年度) 114.94ha
2	飼料用米 （多収品種） （基幹作物）	飼料用米多収栽培 技術導入支援	多収栽培技術の導入面積 10a当たりの収量 60kg当たりの生産 費	(2019年度) 25.0ha (2019年度) 573 kg/10a (2019年度) 12,315円/60kg	(2020年度) 67ha (2020年度) 568 kg/10a (2020年度) 12,000円/60kg
3	飼料用米 （一般品種） （基幹作物）	飼料用米推進助成	取組面積 生産費	(2019年度) 2.4ha (2019年度) 12,835円/60kg	(2020年度) 36ha (2020年度) 12,500円/60kg
4	麦・大豆・そば・ なたね （基幹作物）	担い手集積支援	麦	(2019年度) 40.2ha	(2020年度) 66.0ha
			大豆	(2019年度) 12.6ha	(2020年度) 36.3ha
			作付面積 そば	(2019年度) 296.1ha	(2020年度) 483.0ha
			なたね	(2019年度) 0.4ha	(2020年度) 2.3ha
			計	349.3ha	587.6ha
			麦	(2019年度) 21.11ha	(2020年度) 46.0ha
			大豆	(2019年度) 7.94ha	(2020年度) 25.6ha
			担い手への そば	(2019年度) 166.06ha	(2020年度) 280.0ha
			集積面積 なたね	(2019年度) 0.12ha	(2020年度) 1.0ha
			計	195.2ha	293.6ha
			集積率	55.9%	60.1%
5	そば （二毛作）	二毛作助成	二毛作の取組面積 麦・そば・なたね・ WCS用稲（基幹作物） 作付面積の内、そば の二毛作に取り組ん でいる割合	(2019年度) 43.0ha (2019年度) 11.8%	(2020年度) 91ha (2020年度) 14.4%
6	WCS用稲 （基幹作物）	資源循環 （耕畜連携）	資源循環の 取組面積 定着率	(2019年度) 27.1ha (2019年度) 70.8%	(2020年度) 57.5ha (2020年度) 82.1%

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり